

東京電力にポンプ車を寄贈 福島第一原子力発電所で作業中

2011年3月11日午後2:46分、日本三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生。その後この地震による津波の影響で福島原子力発電所の発電機に電源喪失、炉心損傷、冷却機能喪失等の重大な問題が生じた。

3月19日、日本大使館を通じて東京電力からのコンクリートポンプ車の提供要請を受け、三一重工はSY 5520 THB（62 m型）とそれに伴う機材の無償提供、また操作・メンテナンス指導として人員3名の派遣を決定。ポンプ車は22日に上海港を出航し24日に大阪港に到着後、警察の先導によって陸路で千葉へ輸送されました。千葉での実車訓練においてより確実に安全な作業遂行のために、特例措置としてポンプ第5ブーム部分に小型カメラと放射能感知器を搭載、さらにポンプの長さも62 mから67 mに延長しました。3月31日より第一発電所1号機の冷却放水作業を開始。4月5日には4号機の上り撮影に成功し同発電機の冷却放水作業にも従事しています。67 mという長さを生かし、長期にわたると想定される冷却放水作業での貢献に大きな期待が寄せられています。



写真：左上 警察の先導で移動中
左下/右 福島第一発電所での作業風景



